

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホームまなべ
所在地	西条市氷見乙769番地
自己評価作成日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は、近くの御旅所まで、散歩に行き、毎日の健康を祈ったり、下肢筋力強化に努めている。
 又季節に添った行事計画を立て、柿狩り、ぶどう狩り、イチゴ狩り等に出かけたり、季節の様々な花見学に行き、季節を感じて頂いたり、気分転換をして、頂いている。ホームの庭には、季節の野菜や草花を植え、収穫の喜びも感じて頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃から近所付き合いを大切にしており、交流が盛んに行われている。運営推進会議では、参加者から積極的に意見が出されている。職員全員で利用者に寄り添ったケアを行っており、ケアの質の向上をさらに目指している。また、新人職員に対する研修もされており、認知症ケアのプロとしての意識を初期の段階から教育している。利用者本位のケアが実践できるよう、関係者や家族とよく話し合いながらサービスの提供がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームまなべ
(ユニット名)	1Fフロアー
記入者(管理者)	
氏名	兵頭 恵子
評価完了日	23年 12月 27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 玄関ホールや各自の名札の裏面にも記載されて有り、理念を理解し、意識確認し日々のサービスに取り組んでいる。	
			(外部評価) 理念に、地域社会に開かれた事業所にする事を掲げており、利用者が地域の住民として生活できるよう、職員間で理念を共有しながら支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議において、地域の方々との意見交換や情報交換等が行われている。地域の方々によるボランティアを毎月の行事としたり、地域で行われる行事等にも参加し交流を大切にしている。毎日の散歩などの時も、地域の方々とは話している。	
			(外部評価) 管理者や職員が「利用者は地域の住民」という意識で地域に働きかけてきた成果として、利用者が地域の方と笑顔で話せるような関係が築けている。また、自治会や老人会、地域のボランティアが気軽に事業所を訪れ、交流が密にとることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々に対する支援はあまり行なわれてないが、運営推進会議等で質問や疑問、相談事についてアドバイス等も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回行われ、利用者の状態報告や行事報告、職員に関する報告等を行い、アドバイスや防災時の対応などについて話し合い等を行い協力を得ている。	
			(外部評価) 事業所の運営や利用者の生活状況等を積極的に紹介しており、参加者からさまざまな意見が出されている。ヒヤリハットや事故対応等についても議題に取り上げ、利用者へのサービスの質の向上に向けた話し合いがなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎月の介護相談員、2ヶ月に1回の地域包括支援センター職員の訪問の時に相談や助言をしてもらっている。又わからない時や、困り事が発生すれば、相談助言をして頂いている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の生活の質の向上に関して積極的に市担当者と相談できる良好な関係が構築されている。また、利用契約書の内容等の運営に関するアドバイスをもらうこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ出入り口の施錠を実施し、それ以外は開放し自由に出入り可能となっている。勉強会等を行い職員各自、意識を持ち職員同士で確認し合い、拘束のないケアに努めている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束を行わないケアの実践のために学習をし、理解を深めている。職員の見守りにより、利用者は自由な生活を送っている。また、日々のケアを行う中で、気になることがあれば職員同志で注意し合い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的に勉強会を行い周知徹底している。職員間のチェック等も常に行い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修、勉強会等には参加しているが、職員が直接話し合ったり、支援する事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前に面接を行い、契約時再度面接、不安点や疑問点について十分説明納得された上で、契約を行っている。又利用料改定や介護報酬の改定加算等算定する場合は、説明会を開催し、十分説明を行い理解して頂いてからの実施としている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時等の会話内容、意見、様子等を連絡し合っている。気軽に意見を言えるような環境づくりに努めている。家族会議を行い意見や要望を聞き、日々の業務に反映させている。意見箱を玄関に設置しているが、活用されてない。 (外部評価) 利用者との関わりが徐々に少なくなってきた家族に対して、継続的に行事の案内等を送付するなど関わりを保つための取組みを行っている。また、家族から出された意見は運営に反映させるよう話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月のケース会において意見交換を行い、よりよい改善に努めている。管理職会、主任、副主任会においても職員の提案や意見を述べ運営に反映している。</p> <p>(外部評価) 管理者やユニットリーダーは日々の介護の現場に携わっており、職員と同じ目線で話し合う事で意見や提案が気軽に出来るような関係が構築されている。管理者は可能な限り職員の意見を運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 半期毎に、個人目標を作成し評価したり、職員の公平な勤務表に基づき、勤務に支障をきたさないように成っている。資格修得への支援を行い、職員一人一人が向上心を持ち、スキルアップ出来るよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修会や勉強会等積極的に参加を促し、参加出来る体制に取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他施設との相互研修、グループホーム協会主催の勉強会に参加し情報交換を行っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居時の面接時に話しをよく聞き、利用者様の不安を取り除けるよう、傾聴し信頼関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居までの経過や、これからの要望、家族が困っている事、不安等について職員間で統一した返答、対応が出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 早い段階で、暫定ケアプランを作成し、サービス開始時には、不安がないよう、安心して馴染めるよう対応、配慮している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共にを行い家庭的雰囲気を作り、信頼関係が築けるようコミュニケーションはもちろん、非言語コミュニケーションを大切にしている。感謝の気持ちを伝えることを大事にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時は、生活記録を開示し、毎月生活報告書にて利用者様の様子を報告する事で、家族様に安心していただけるよう努力している。変化が有った時は、即電話にて細かく報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 来館してくれる方に対しては、支援出来ているが、こちらから出向いて行くことはない。外出時は利用者様の希望の所へ立ち寄る事が有る。 (外部評価) 利用者の高齢化等で自分たちから出向くことは難しい状況だが、昔からの友人や知人、事業所での生活で知り合った近隣の住民が事業所を訪れてくれる。これまで大切にしてきた馴染みの関係を可能な限り継続するよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士が、関わりあえるよう職員が、声掛けに努めている。一つのテーブルを囲み、パズル、貼り絵、洗濯たたみ等が行えるよう支援している。1F、2F全利用者様が行事や外気浴、散歩等でレク等を入所者様全員で、楽しんでもらうよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後は、あまり関わる事がないが、母体の病院に入院の場合は、お見舞いに立ち寄ることがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の何気ない会話や日記、表情等でどんな物を食べたい、どんな所に行きたい等本人の思いに応じるように努めている。帰宅願望の有る人の、対応についても、その時の状況に応じ職員が交替しながら、共感するよう努めている。 (外部評価) 利用者の今を大切にするために、これまでの生活歴を把握するように心がけている。入浴や散歩等の一对一の関わりの際に、生活歴の聞き取りをしている。聴取した内容については、ミーティングなどで話し合い職員間で共有している。	利用者の生活歴の共有化は、口頭で行われることが多いため、職員全員で利用者それぞれの生活歴を記録化することにより、職員間で情報量の差の確認ができ、利用者の新たな一面を再認識することができるため、取り組むよう望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人家族様から、生活歴やそれまでの暮らし方等を聞き、これからのサービスに取りいれ支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 既往歴の把握や、毎日の定期的なバイタルチェックをし、利用者様一人一人の生活のリズムに合わせて、心身状態を把握する事に努め、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) その人らしい生活ができるよう、毎月ケース会を開き、モニタリングやアセスメントを行い、職員全員で検討しケアプランの見直し作成を行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画はモニタリングを基に評価し、見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に、全職員で評価を行っている。新人職員には、管理者がモニタリングや介護計画のポイント等直接指導しており、介護計画の質の向上に努めている。</p>	介護計画の中に日常の業務として一般的に行われている項目が記載されているため、職員が利用者にとどのような生活を提供したいのか明瞭に読みとることができるように、整理することを望みたい。また、介護記録はモニタリングのための材料でもあるので、より使いやすく記載する方法を検討するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の生活記録に細かく記録されている。申し送り時や申し送りノートにて職員間の情報の共有もされており、支援に活かされている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族や職員等相談の上、その人に一番良い方法で支援に取り組んでいる。歯科受診や買い物等も柔軟に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) ボランティアの方々の協力により、行事が行われたり、移動図書館を、楽しみに待ち利用している。防災訓練等への参加、自治会を通して地方祭等楽しむ事が出来る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体の病院より、毎週往診が有り、体調の悪い方は、 病院と連携し受診している。母体の病院の受診介助 は、職員が行うが、他病院受診は、家族様に依頼して いる。</p> <p>(外部評価) 地域の中核を担う総合病院が母体となっているため、 ほとんどの利用者がその病院の医師をかかりつけ医と している。利用者の状況を共有化するため受診の際に は、可能な限り家族に同行してもらうよう依頼してい る。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者様の状態に変化が有る時は、看護師に相談受診 している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 母体の病院に殆どの場合、入院する事が多い為、連携 体制が整っているので、入退院後も利用者様に安心し てもらえる対応が、出来ておりスムーズに行ってい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 早い段階から、重度化した場合や終末期に向けた話し 合いを行い、他の施設等の申込を依頼している。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期の対応については、早い段階から家族 等との話し合いを行っている。必要に応じて利用者が よりよい環境で生活できるように専門的な立場から、 他施設の利用も視野に入れ提案する等、利用者本位に 支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な勉強会が行われたり、事故発生時に備え、応急処置や急変時対応の訓練を、消防職員を研修の場に招き講習や実践を行っている。マニュアルも作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を実施している。災害備蓄品も三日分備蓄し、一年に一回三分の一ずつ防災の日に、試食し入れ替えて行く予定である。また、地域の方々にも参加してもらったり、運営推進会の時話し合いをもっている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。災害時のために食料を備蓄しておく等、災害に対する意識は高い。また、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ケース会等で話し合い、利用者様の尊厳を、傷つけない声掛けや対応に努めている。勉強会も実施している。 (外部評価) 利用者への声かけは、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。食事中には職員が寄り添って親身に対応しており、利用者の表情には安心感が感じられ、職員が利用者の人権を尊重した上で支援していることがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の表情やしぐさ等から、気持ちを理解しながら、本人の思いをくみ取り、自己決定が出来るよう、声掛け接するように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活リズムに、合わせての対応に努めている。その日の、体調などにより異なる事が有り、申し送りなどで伝え、無理をしない支援に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望を取り入れ、アドバイスなどもしながら支援している。定期的に希望者のみ散髪も行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の下準備や片付けなど、利用者様が進んで行ってくれている。楽しく会話をしながら、職員が教えてもらうこともある。利用者様の希望なども聞き、行事メニューに取りいれている。 (外部評価) 食事の準備や片付けができる利用者には、無理強いをしないよう配慮しながら手伝ってもらっている。介助が必要な利用者には職員がさりげなく寄り添い、楽しく食事ができるよう支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量を、毎日確認出来るように記録し、一人一人の必要量を確保出来るようチェックしている。不足の時は、食べやすいよう、飲みやすいよう味付けに工夫をし摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の、口腔ケアの徹底をしている。夜間は、義歯の洗浄、消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の記録を行い、排泄パターンを把握し、変化について、ケース会で話し合い共有している。又声掛けは、不安や羞恥心に配慮し行い、自立に向けた支援や誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導は丁寧にさりげなく行われている。トイレでの排泄を基本とし、利用者の状況や体調、時間帯によりパッドや紙おむつも臨機応変に活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物、飲み物の工夫、運動への働きかけをして、一人一人の排泄時間を把握し声掛けなどを行い、自然排便に努めている。毎日ヨーグルトを食べてもらったり、必要ならば、医師に相談し、センナ茶や便秘薬で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) バイタルチェック後、利用者様に声掛けしている。ゆっくり入浴してもらう事を、基本としているが、気が向かない時などは、無理強いする事なく対応している。利用者様の入りたい時間に、合やすことは、難しいが出来るだけ対応するよう、心掛けている。	
			(外部評価) 1週間に2回のペースで入浴しており、立位がとれない利用者についてはシャワー浴で対応している。利用者の状況を把握した上で時間帯の調整を行い、気持ちよく入浴してもらえるような支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調に合わせてたり、本人の希望があれば、いつでも休息出来るようにしている。夜間も適度な照明や室温、音等にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての服薬ファイルが有り確認出来るようになってきている。変更になった時は、申し送りなどで報告し、理解、確認を取っている。一日の業務の中では、服薬担当者が決まっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の出来る事を、見だし本人が気軽に出来る事を支援する。毎月季節に合わせた行事計画を立て、気分転換を計り、日々の余暇活動の充実に取りくんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の体調や天候などに合わせて、外気浴や散歩、買い物などに一緒に出かけている。外食やドライブ等に行くときも下見などして状況確認している。希望が有れば、自宅や墓参りにいくなどの、支援もしている。 (外部評価) 天気の良い日には積極的に外出している。また、肌で季節を感じ取ってもらったり、生活のリズムを整えるため短時間でも外気浴するよう心がけている。外出等の行事については運営推進会議で報告を行い、参加者から意見をもらいながらより良い外出支援になるよう取組みがされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持っている利用者様は、限られていて、殆どの利用者様は、所持していない。所持している利用者様は、希望が有ればいつでも使えるように支援している。月に二度程スーパーに買い物に行き、自分の食べたい物を買ったり、来所する移動パン屋のパンを購入したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からの電話が有ったり、贈り物が届いた時などは、利用者様の方よりお礼の電話をしている。字の練習はしているが、手紙を出すことは、殆どない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を玄関廻りや、花壇に植え、利用者様に季節感を感じてもらったり、季節毎の貼り絵やディスプレイを制作し、掲示している。浴室やトイレの場所がわかるように表示している。廊下の見やすい所に、行事等の写真を掲示している。	
			(外部評価) 共用空間は広くゆったりとしている。キッチンがオープンであるため、生活感が感じられ馴染みやすい構造となっている。食器棚等の家具は転倒防止の措置が講じられており、利用者の安全に十分な配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者様同士の適度な距離感は保てるよう、座席等の配置にも配慮している。廊下や窓際等にもソファーや椅子を置き、ゆっくりとした時間や、気分転換が出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族に協力して頂き、使い慣れた家具や椅子を配置している。畳を、希望される利用者様には、畳で過ごせるよう配置している。又家族の写真や絵なども飾っている。	
			(外部評価) 利用者が使い慣れたものを持ち込み、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる空間となっている。事業所で用意しているベッド等も部屋ごとに配置が異なっており、利用者の要望や状況によって使い勝手よく空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の名札、トイレ、入浴時間などわかりやすいよう、表示している。廊下の手すりを利用しての歩行練習や自己リハなどにも使用している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホームまなべ
所在地	西条市氷見乙769番地
自己評価作成日	平成23年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天気の良い日は、屋外に出て、散歩、外気浴を行い、外で活動することにより、気分転換を図り、抵抗力をつけ、毎日、利用者様が元気で過ごせるよう、廊下歩行、階段の上がり、下り、自己リハビリを続けている。又、庭の花壇に季節の花や野菜を作り、収穫を楽しんで頂いている。季節を感じて頂く為、ぶどう狩り、柿狩り、イチゴ狩りや花見学に出かけて行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日頃から近所付き合いを大切にしており、交流が盛んに行われている。運営推進会議では、参加者から積極的に意見が出されている。職員全員で利用者に寄り添ったケアを行っており、ケアの質の向上をさらに目指している。また、新人職員に対する研修もされており、認知症ケアのプロとしての意識を初期の段階から教育している。利用者本位のケアが実践できるよう、関係者や家族とよく話し合いながらサービスの提供がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームまなべ

(ユニット名) 2Fフロアー

記入者(管理者)

氏名 兵頭 恵子

評価完了日 23年 12月27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ユニット会等でも、話し合い職員が意識し開かれた、施設であるよう努めている。玄関ホールや各自の名札の裏にも、記載し確認出来るようにしている。	
			(外部評価) 理念に、地域社会に開かれた事業所にする事を掲げており、利用者が地域の住民として生活できるよう、職員間で理念を共有しながら支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会において、情報発信し地域の、清掃活動、行事等へ参加したり、自治会の方々による、慰問があり体操、歌、踊り等して頂いている。又散歩や外気浴の時は、声を掛けてくださる関係を、大事にしている。	
			(外部評価) 管理者や職員が「利用者は地域の住民」という意識で地域に働きかけてきた成果として、利用者が地域の方と笑顔で話せるような関係が築けている。また、自治会や老人会、地域のボランティアが気軽に事業所を訪れ、交流が密にとることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会や行事等の時に、質問や疑問、相談等に応じているが、施設側からは、積極的に働きかけてはいない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回行われる会では、利用者様、職員、行事報告等行い、アドバイスを頂いたり、災害や火災時の協力依頼をしたりしている。又地域の行事等の予定等も聞いている。	
			(外部評価) 事業所の運営や利用者の生活状況等を積極的に紹介しており、参加者からさまざまな意見が出されている。ヒヤリハットや事故対応等についても議題に取り上げ、利用者へのサービスの質の向上に向けた話し合いがなされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会に、地域包括支援センター職員に参加してもらい、相談や助言をしてもらっている。毎月介護相談員の来所があり、利用者様との会話の中で、希望や思いを施設に伝えてもらえ、日々の支援に生かしている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の生活の質の向上に関して積極的に市担当者と相談できる良好な関係が構築されている。また、利用契約書の内容等の運営に関するアドバイスをもらうこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外は、玄関、南北側非常口の扉は、開放し自由に屋外出られるように成っている。出て行かれる、利用者様には、職員が付き添い見守りしている。コンビネーションパジャマを着用されている利用者様が居るが、事前に、家族様と話し合い、説明と同意を頂き、毎週職員間で話し合いを行い、ストレスが溜まらない支援に心がけている。	
			(外部評価) 職員は身体拘束を行わないケアの実践のために学習をし、理解を深めている。職員の見守りにより、利用者は自由な生活を送っている。また、日々のケアを行う中で、気になることがあれば職員同志で注意し合い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修に参加し、職員間で意識を共有し防止に努めている為、虐待はないと思われる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会に参加してはいるが、実際に支援する事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に面接を行い、家族様や本人の不安点、疑問点、意向を十分に聞いたうえ、納得や理解してもらった上で契約を行っている。又利用料改定や介護報酬改定の場合は、説明会を実施し、十分説明を行い理解して頂いてからの実施としている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置しているが、十分には活用されていないが、家族様が来館時に、生活記録等も開示し意見や要望等も聞いている。又介護計画書をたてる時も家族様の意向を反映させたものとしている。介護相談員さんも利用者様と職員の橋渡しの役目を担って頂いている。 (外部評価) 利用者との関わりが徐々に少なくなってきた家族に対して、継続的に行事の案内等を送付するなど関わりを保つための取組みを行っている。また、家族から出された意見は運営に反映させるよう話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月のケース会等に於いて意見交換し、より良い改善に向けて取り組んでいる。出された意見については、管理職会や主任・副主任会等にも提案し運営に反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者やユニットリーダーは日々の介護の現場に携わっており、職員と同じ目線で話し合う事で意見や提案が気軽に出来るような関係が構築されている。管理者は可能な限り職員の意見を運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格修得に向けて支援は行われ、向上心を持ち、個々のスキルアップに努めているが、給料に十分反映されているとは言えない。職員個々は、半期毎の個人目標を、設定し評価している。勤務は公平な事を、基本的に勤務表を組み、業務に支障のないよう配慮されている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 段階的に、個々の能力に応じた、研修会、勉強会に出席し技術や知識を身につけ、全体の職員に報告会を行い、再度勉強会を行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 介護支援専門員研修会や、他施設との総合研修、グループホーム協会主催の勉強会等に参加し、知識の修得や情報交換を行い、サービスの向上に努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居時や早期に本人と面接を行い、要望、意向等を十分聞き信頼関係構築に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時や早期に、入居経過や、要望、家族が不安や困っている事について、傾聴し職員間で情報を共有し統一した返答、対応が出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っている事、要望を聞き暫定ケアプランを立て、不安なく、安心して生活が出来るよう支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 残存機能を生かし、家庭的雰囲気のもと、出来る事は、してもらい、人としてもちつもたれつとの関係を築いている。孤立してしまいがちな利用者様は職員が中に入り、出来るだけ一緒に過ごせるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月生活報告書やホーム誌を家族様に発送し、面会時には生活記録の開示も行っている。又自室にてゆっくりと面会して頂き、家族様との時間を大切に頂き、相談や不安に対ししっかりと説明している。行事にも、家族様の参加を依頼しより開かれた施設に成るよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が来館時は、自室にてゆっくりと会話出来るよう支援しているが、こちらから、出かけて行くことは、あまりない。外出時希望の場所に立ち寄る事は有る。 (外部評価) 利用者の高齢化等で自分たちから出向くことは難しい状況だが、昔からの友人や知人、事業所での生活で知り合った近隣の住民が事業所を訪れてくれる。これまで大切にしてきた馴染みの関係を可能な限り継続するよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に出来る家事等は、同じテーブルで行い、利用者様が他者の事を、気づかう場面はよく見られる。又意思疎通の出来ない方も、レク等の時は、同じ輪の中に入れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時は情報提供し、次のサービスにつなげるよう支援しているが退居後は、あまり関わる事はない。母体の病院に入院の場合は、受診介助時、お見舞いに立ち寄る事はある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 現在は出来なくても、昔好きだった事やされていた事を出来るだけして頂くよう支援している。日々の会話の中から、思いをくみ取るよう傾聴し、職員間で共有するようにしている。 (外部評価) 利用者の今を大切にするために、これまでの生活歴を把握するように心がけている。入浴や散歩等の一对一の関わりの際に、生活歴の聞き取りをしている。聴取した内容については、ミーティングなどで話し合い職員間で共有している。	利用者の生活歴の共有化は、口頭で行われることが多いため、職員全員で利用者それぞれの生活歴を記録化することにより、職員間で情報量の差の確認ができ、利用者の新たな一面を再認識することができるため、取り組むよう望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族様、担当介護支援専門員等から情報提供して頂き、これからのサービスに取り入れ支援に生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のケアの中で、身体状況の変化は、定期的バイタルチェックを行い、心の変化は、発する言葉の調子や態度の変化を注意深く観察し、申し送り帳やケース等で情報を共有支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 日々の生活の中から思いをくみ取り、家族様の面会時には、意見を聞き、毎月ケース会を開き、モニタリング、アセスメントを行い、全員で検討しケアプランの見直し作成を行っている。</p> <p>(外部評価) 介護計画はモニタリングを基に評価し、見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に、全職員で評価を行っている。新人職員には、管理者がモニタリングや介護計画のポイント等直接指導しており、介護計画の質の向上に努めている。</p>	介護計画の中に日常の業務として一般的に行われている項目が記載されているため、職員が利用者にとどのような生活を提供したいのか明瞭に読みとることができるように、整理することを望みたい。また、介護記録はモニタリングのための材料でもあるので、より使いやすく記載する方法を検討するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の生活記録には、本人の発した言葉等も、記録し申し送り時や、申し送りノートにて職員間の情報の共有もされており、支援に生かされている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) その時々、変化に応じて職員や家族様と相談の上、その時一番良い方法で支援している。外出、歯科受診、買い物等も支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の方々とも馴染みの関係に有り、行事には、地域のボランティアの方々による、歌、体操、踊り等気軽に来館してもらい。三時のおやつは、毎回一緒に食べて頂き楽しい時を、過ごさせて頂いている。又消防訓練への参加、移動図書館の利用、地方祭への参加も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体の病院より、毎週往診が有り、体調の悪い方は、 病院と連携し受診している。月に最低一回は、体調に かかわらず受診している。他の病院受診は、家族様に 依頼している。</p> <p>(外部評価) 地域の中核を担う総合病院が母体となっているため、 ほとんどの利用者がその病院の医師をかかりつけ医と している。利用者の状況を共有化するため受診の際に は、可能な限り家族に同行してもらおうよう依頼してい る。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者様の状態に変化が有る時、看護師が勤務に就い ている時は、連絡看でもらい指示を仰いでいる。又看 護師主体の勉強会も行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 母胎の病院に殆どの場合、入院する事が多い為、連携 体制が整っている。又早期退院に向けて、家族様、医 師、看護師とも十分話し合い、退院後のリハビリ等も 指導してもらっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合や終末期に向け、早い段階で家族、主 治医、管理者、職員等で話し合い、他の施設等の申込 を依頼している。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期の対応については、早い段階から家族 等との話し合いを行っている。必要に応じて利用者が よりよい環境で生活できるように専門的な立場から、 他施設の利用も視野に入れ提案する等、利用者本位に 支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に勉強会を行い、事故発生時に備え、応急処置や急変時対応訓練、消防職員を研修の場に招き心肺蘇生、AEDの使用方法等実践している。又急変時、緊急時マニュアルも作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行い、運営推進会議においても、地域の方々に依頼や意見交換を行っている。災害備蓄品も三日分備蓄し、一年に一回三分の一ずつ防災の日に、試食し入れ替えて行く予定である。 (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。災害時のために食料を備蓄しておく等、災害に対する意識は高い。また、地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会やケース会等で話し合い、自尊心を傷つけない、声掛けや対応を心がけている。 (外部評価) 利用者への声かけは、親しみやすさの中にも敬う気持ちが感じられる。食事中には職員が寄り添って親身に対応しており、利用者の表情には安心感が感じられ、職員が利用者の人権を尊重した上で支援していることがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様同士の会話の中で、職員が読みとり、自己決定出来る場面を作っている。意思表示の出来ない利用者様は表情を読み取るよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 好きな歌を唄ったり、居室にて体を休めたり、仏様を拝んだり、アルバムを見たり自分のペースで過ごされている。一日のスケジュールは概ね決まっているが、参加は自由である。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定出来る利用者様は、自分で服を選んで、化粧もされている。服装、髪の流れ等職員が気を配っている。希望される方は、散髪も行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや、食器洗いが出来る方は進んでされている。楽しく会話しながら食事を摂られている。意思疎通の困難な方も、声掛けにて食事を摂られている。 (外部評価) 食事の準備や片付けができる利用者には、無理強いをしないよう配慮しながら手伝ってもらっている。介助が必要な利用者には職員がさりげなく寄り添い、楽しく食事ができるよう支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事量を毎日確認出来るように、記録に残し、一人一人の必要量を確保出来るようにしている。不足の場合は、味付けを工夫したり、代用の物を取って頂いたり工夫している。食器も持ちやすい物に、替えている。体重が増加傾向の方は、運動を多く取り入れ体重管理を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行い、夜間は義歯の消毒を行っている。始めに自分で磨いて頂き、仕上げを職員がしている。口腔、舌等もハミントンにて清掃している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> 排泄の記録を取り、時間毎のトイレ誘導を行っている。立位が困難な、利用者様は二人介助にて支援している。ケース会で、変化については、検討し情報を共有している。羞恥心や自立に向けた、支援も行っている。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導は丁寧にさりげなく行われている。トイレでの排泄を基本とし、利用者の状況や体調、時間帯によりパッドや紙おむつも臨機応変に活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 食物繊維の多い食材や水分を多めに摂取して頂いたり、散歩や運動を促したり、一人一人の排泄パターンを把握し自然排便に、努めている。必要な時は、医師に相談、センナ茶、便秘薬にて対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> 入浴前はバイタルチェックを行い、一人で入浴される利用者様は、プライバシーを確保しながら、本人のペースにて見守りのもと、入浴されている。利用者様の入りたい時間に、合やす事は難しいが、無理強いする事なく、順番にも、配慮している。	
			<p>(外部評価)</p> 1週間に2回のペースで入浴しており、立位がとれない利用者についてはシャワー浴で対応している。利用者の状況を把握した上で時間帯の調整を行い、気持ちよく入浴してもらえるような支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> その日の、利用者様の体調に合わせてたり、希望があれば、いつでも休息出来るように成っている。部屋の温度や照明、音にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) どのような薬を服薬しているか、服薬ファイルが有り確認している。変更時は、申し送り時や申し送りノートに記載し確認している。業務ので、服薬担当者を決めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方に出来る事を、見つけして頂き成功体験を感じていただく支援や、毎月季節に、あった行事計画を立て、季節を感じて頂いたり、気分転換を計っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の体調に合わせ、天気の良い日は、外気浴や散歩買い物等に出かけている。又重度の方も、車椅子にて出かけて、季節や気候を肌で感じていただけるよう支援している。家族様と食事や買い物に行かれる方もいる。	
			(外部評価) 天気の良い日には積極的に外出している。また、肌で季節を感じ取ってもらったり、生活のリズムを整えるため短時間でも外気浴するよう心がけている。外出等の行事については運営推進会議で報告を行い、参加者から意見をもらいながらより良い外出支援になるよう取組みがされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理されている方はいません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族から電話が有ったり、お誕生日にはバースデイカードが届いている。数名の方は、年賀状を出されている。生活の中で字の練習を行ってはいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関、廊下、洗面台に季節の花を生け、利用者様に季節を感じて頂いたり、季節毎の貼り絵、カレンダー、ディスプレイをリビングや居室に掲示している。又玄関廻りや畑等も季節の作物を作り、収穫の喜びを味わって頂いている。	
			(外部評価) 共用空間は広くゆったりとしている。キッチンがオープンであるため、生活感が感じられ馴染みやすい構造となっている。食器棚等の家具は転倒防止の措置が講じられており、利用者の安全に十分な配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者様同士が、座り談話出来る空間や、廊下やリビングにソファや椅子を配置し、気分転換出来るよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族に、依頼し馴染みの家具や、備品を持ってきて頂いている。	
			(外部評価) 利用者が使い慣れたものを持ち込み、写真や絵などが個性豊かに飾られており、居心地よく過ごせる空間となっている。事業所で用意しているベッド等も部屋ごとに配置が異なっており、利用者の要望や状況によって使い勝手よく空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室にはネームプレートを設置し、トイレや風呂は絵や字を書いてわかりやすく工夫している。	